マン・レイと友人たち展

1991 8•10[SAT]-9•8[SUN]

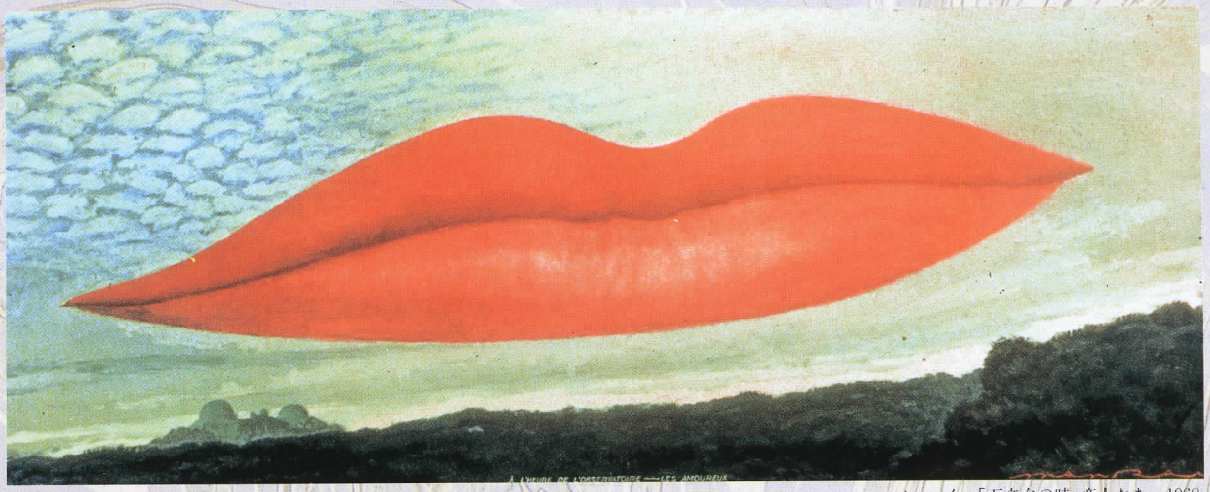
高松市美術館

高松市紺屋町10-4 Phone. 0878-23-1711

開館	午前９時～午後５時（初日は午前10時オープン、金曜日は午後７時まで） 月曜日は休館日
入場料	一般800円・高大生400円・小中生200円（前売り及び団体20名様以上は２割引）
主催	高松市美術館・読売新聞大阪本社・美術館連絡協議会
後援	外務省・文化庁・アメリカ大使館・フランス大使館・西日本放送
協賛	花王

Man Ray et ses amis

マン・レイ「マリー・ロール・ド・ノアーユ」(1930)



マン・レイ 「天文台の時、恋人たち」1968

マン・レイと友人たち展

マン・レイ（1890〜1976）は「光線の男」を意味します。本名はエマニエル・ロドニッキー。米国・フィラデルフィアで生まれ、パリを中心に活躍したこの作家は、写真、絵画、立体造形、実験映画などの実に幅広い分野で活躍した総合芸術家として知られています。1913年に「アーモリー・ショー」の展覧会でマルセル・デュシャンやフランシス・ピカビアの前衛芸術に衝撃を受けたマン・レイはその後、ダダ・シュールレアリスム運動に参加し、その機知に富んだ活発な芸術活動で20世紀美術に多大な影響を与えました。

この展覧会では、彼の生涯をその制作拠点にしたがって四つの時代に分け、マン・レイの芸術活動を約160点に及ぶ作品でたどるとともに、彼の芸術に深い影響力を及ぼしたニューヨーク・ダダの創始者マルセル・デュシャン、フランシス・ピカビアやシュールレアリスムの代表的な作家であるマックス・エルンストらマン・レイと深い交流を持った作家達の作品約70点を同時に紹介するものです。

▶講演会 「マン・レイと友人たち」

講　師　千葉成夫氏（東京国立近代美術館　彫刻・立体造形係長）
日　時　8月18日（日）午後1時30分より
場　所　高松市美術館1階講堂にて
入　場　無料　定員 先着200名様

▶映画鑑賞会

テーマ　映画とシュールレアリスム－マン・レイを中心に
日　時　8月24日（土）、25日（日）
　　午後1時・3時30分・6時（約120分）
場　所　高松市美術館　1階講堂にて
入　場　無料　定員 先着200名様

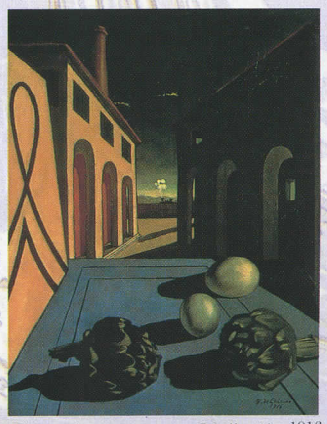
▶次回の特別展

ベオグラード国立美術館展
19・20世紀フランス絵画
9月21日（土）〜10月20日（日）

アンディ・ウォーホルの映画回顧展
9月13日（金）〜9月16日（月/祝日）
高松市美術館　1階講堂にて

マルセル・デュシャン
「モンテ・カルロ債券」1938

マン・レイ 「ほこりの培養」1920



ジョルジョ・デ・キリコ 「出発の謎」1916